第三講　『潜研堂文集』／『東坡居士艾子雑説』

一

次の文章を読んで、後の問いに答えよ（設問の都合で、送り仮名を省いたところがある）。

古有儒(注1)・釈・道三教、自明以来、又多一教曰小説。(注2)小説演義之書、①未嘗自以為教也。而士大夫・農・工・商賈(注3)無不習聞之、以至児童・婦女・不識字者、亦皆聞而如見之。②是其教較之儒・釈・道而更広也。釈・道猶勧人以善、③小説専導人以悪。姦邪淫盗之事、儒・釈・道書所不忍斥(注4)言者、彼必尽相窮形、津津(注5)楽道、以殺人為好漢、以漁色為風流、喪心病狂、無所忌憚。子弟(注6)之逸居(注7)無教者多矣、又有此等書以誘之、④曷怪其近於禽獣乎。世人習而不察、⑤輒怪刑獄之日繁、盗賊之日熾、豈知小説之中於人心風俗者、已非一朝一夕之故也。

（銭大昕『潜研堂文集』）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〔注〕　1　儒・釈・道三教――儒教・仏教・道教の三つの教え。
2　小説演義――小説の一形式。歴史事実に脚色を加え、口語を交えて著したもの。　3　商賈――商人。
4　斥言――はっきりと言う。　5　津津楽道――悦んで口に出す。　6　子弟――若者。
7　逸居――気ままに暮らす。

問一　傍線部①をすべて平仮名で書き下せ。

問二　傍線部②は、どういうことを、何を根拠に言っているか。具体的に説明せよ。

問三　傍線部③の具体的な内容を言っている部分を文章中より抜き出し、その始めと終わりの五字をそれぞれ書け。ただし句読点や送り仮名は含まない。

始め…

終わり…

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問四　傍線部④を、「其」が指す内容を明示して、わかりやすく口語訳せよ。

問五　傍線部⑤で、刑事事件や強盗事件がますます増える現状に、世の人々がその理由を考えあぐねているとされるが、ではその理由はどこにあるのか。文章内容に即してわかりやすく説明せよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈講義動画中に使用します〉

「者」…語や句の下に付く。

上の語や句の内容によって、「人・こと・時・場所・方法・理由・状態」などの意味になる。
訓読は「モノ・コト・ハ・トコロ」や、読まない場合もある。

（例）受(クル)二人(ノ)施(シヲ)一**者**(ものハ)、常(ニ)畏(ル)レ人(ヲ)。　〔人の施(ほどこ)しを受くる**者**(もの)は、常に人を畏(おそ)る。〕
（人の施しを受ける**者**は、いつも人を畏れるようになる。）

（例）至(ル)下於不(ル)二敢(ヘテ)加(ヘ)レ兵(ヲ)**者**(こと)終(フルニ)中其(ノ)身(ヲ)上。　〔敢へて兵を加へざる**者**(こと)其の身を終ふるに至る。〕
（おもいきって攻撃を加えようとしないままで〔＝**状態で**〕一生を終えてしまった。）

（例）頭(ニ)戴(ク)レ冠(ヲ)**者**(は)文也。　〔頭(こうべ)に冠を戴く**は**文なり。〕　（頭に冠を載せている**こと**は文〔＝学問〕の証です。）

（例）此(レ)非(ズ)下孟徳之困(くるシメラレシ)二於周郎(ニ)一**者**(ところニ)上乎(や)。　〔此れ孟徳の周郎に困しめられし**者**(ところ)に非ずや。〕
注　周郎…呉の周瑜
（ここは孟徳が周瑜に苦しめられた**場所**ではなかったか。）

（例）誠(ハ)**者**天之道也。　〔誠は天の道なり。〕　（誠**は**天が定めたこの世に行われるべき道である。）

＊「時」に関する字について意味を強める働きをする。
（例）今者(いま)・昔者(むかし)・古者(いにしへ)・向者(さきに)　など

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二

次の文章を読んで設問に答えよ。なお、設問の都合で送り仮名を省いたところがある。

斉宣王時、人有死而生、（A）能言陰府間言。（B）乃云。

（C）方在陰府時、見閻羅王詰責一貴人曰、（D）「汝何得罪之多也。」因問曰、「何人也。」曰、「魯正卿季氏也。」其貴人再三不服曰、「無罪。」閻王曰、「某年斉人侵境、汝只遣万人往応之。皆曰、（E）多寡不敵、必無功、豈徒無功、必枉害人之命。汝復而不従。（F）是以斉兵衆、万人皆死。又某年某日饑、（G）汝蔽君之聡明而不言。遂不発廩、因此死数万人。又汝為人相、職在燮理陰陽、汝為政乖戻、多致水旱之歳、民被其害。此皆汝之罪也。」其貴人叩頭乃服。王曰、「可付阿鼻獄。」乃有牛頭人数輩執之而去。

艾子聞之、太息不已。門人問曰、「先生与季氏有旧耶。何嘆也。」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

艾子曰ク、「我ハ非ザルナリ㆑歎クニ㆓季氏ヲ㆒也。蓋シ歎クナリト㆓閻羅王ヲ㆒也。」門人曰ク、「何謂也。」曰ク、

「H自リ㆑此レ安ンゾ得ンヤト㆓獄ノ空ナルヲ㆒耶。」

（『東坡居士艾子雑説』）

〔注〕陰府――あの世。　閻羅王――閻魔大王。　詰責――詰問すること。　魯正卿季氏――魯国の大臣の季氏。
枉害――むりやりにそこなうこと。　発廩――穀物倉庫を開くこと。　燮理――秩序をととのえること。
乖戻――あるべき道にもとること。　阿鼻獄――最も苦しい地獄。　有旧――旧交があること。

問一　傍線部Ａ「能」・Ｂ「乃」・Ｃ「方」・Ｆ「是以」の読みを、送り仮名も含めて記せ。

Ａ＝　　　　Ｂ＝

Ｃ＝　　　　Ｆ＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問二　傍線部Ｄ「汝何得罪之多也」を平仮名のみで書き下せ。

（例）学而時習之→まなびてときにこれをならふ

問三　傍線部Ｅ「多寡不敵、必無功」・Ｇ「汝蔽君之聡明而不言」を現代語訳せよ。

Ｅ＝

Ｇ＝

問四　傍線部Ｈ「自此安得獄空耶」とあるが、艾子はどうしてそう言ったのか。七十五字以内で説明せよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第三講

①　「今方来ラントス、欲スレ辱シメントレ之ヲ。」の傍線部の読みを、送り仮名も含めて平仮名で記せ。

②　「何謂也。」を訳せ。

③　「是以不二敢当一也。」を、すべて平仮名で書き下し文にせよ。仮名遣いは問わない。

④　「安有取人之駒く者乎。」の「安」は反語である。すべて平仮名で書き下し文にせよ。

⑤　「人孰不レ楽二告以一レ善哉。」の「孰」は反語である。傍線部を平仮名で書き下し文にせよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

【第三講】

〔模範解答〕

一

問一　いまだかつてみづからもつておしへとなさざるなり。

問二　小説の教えが、儒教・仏教・道教よりも広く普及しているということを、小説の教えが士大夫〔＝官吏〕・農民・職人・商人はもちろんのこと、子供や女性、文字の読み書きができない者にまで内容を知られていることを根拠に言っている。

問三　始め…以殺人為好　　終わり…狂無所忌憚

問四　どうして気ままに暮らして何の教えも持たない若者で、小説の教えで悪に導かれた者が、鳥獣に近いことを不思議に思うだろうか、いや、不思議に思わない。

問五　人を悪に導く小説が明の時代から儒教・仏教・道教よりも広く普及し、長い期間たくさんの人々に読まれて、自然と人の心や風習に影響を与えてきたから。

二

問一　A＝よく　　B＝すなは〔わ〕ち　　C＝まさに　　F＝ここをもつ〔っ〕て

問二　なんぢなんぞつみをうる（こと）のおほきや（と）。

問三　E＝兵の数が多い相手〔＝多い敵〕に少ない人数では匹敵しないので、きっと成果〔＝功績〕が無くG＝お前は君主が知る機会を与えず進言しなかった。

問四　世間には季氏のような悪を働く為政者はたくさんいるので、閻魔大王の裁きをあの世で受けたら、季氏以外の多くの為政者も地獄に落とされることになるから。（七十二字）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〔現代語訳〕

一

昔は儒教・仏教・道教の三つの教えがあり、明の時代から以降は、また一つ教えが多く（その教えを）小説という。小説の一形式の書物は、今まで一度も自ら教えと称したことはない。しかし官吏・農民・職人・商人でこれを習慣的に聞いていない者はおらず、子供・女性・字の読み書きができない者に至るまで、また皆が聞いてこれを見たかのようだ。これはその（小説の）教えが儒教・仏教・道教と比べてさらに広まっているということである。仏教・道教でさえ善を人に勧めるが、小説はひたすら悪によって人を導く。道理に反することやみだりに盗むことなど、儒教・仏教・道教の書物がはっきり言うには耐えられないことも、小説は必ずそのありさまを書き尽くして書き窮めて、悦んで口に出して、人を殺すことも立派な男とみなし、女を追い求めることも風流とみなし、本心を失って狂ったようになることも、（書くのを）遠慮することがない。若者で気ままに暮らして教えを持たない者が多い、またこれらの書物が彼らを誘惑することがあれば、どうして若者が鳥獣に近いものとなることを不思議に思うだろうか、いや、思わない。世間の人は習っても研究しようとせず、いつも刑事事件や強盗事件が日に日に増えることを不思議がるが、どうして小説が人の心や風習を損なってきたことが、すでに一朝一夕の短い間の影響ではないことをわかっていようか、いや、わかっていない。

二

斉の宣王の治世に、死んで生き返った人がいて、あの世にいたときの話をすることができた。そこで言った。ちょうどあの世にいたとき、閻魔大王が一人の貴人を詰問していて、「お前はなんと罪を得ることの多いことよ」と言うのを見た。そこで（私はそばにいた者に）尋ねて、「（あの人は）何者ですか」と言った。（その人が）言うには、「魯国の大臣の季氏である」と。その貴人は再三にわたり従おうとしないで言うには、「（私は）無罪です」と。閻魔大王が言うには、「ある年、斉の兵が（魯の国の）国境に侵入したが、おまえはただ一万の兵を派遣して対応させただけであった。（派遣された兵の）みんなが言うには、『大人数に少人数では匹敵しないので、きっと成果がなく、どうして成果がないだけであろうか、きっと人の命をむりやりにそこなうことになる』と。お前は（このときも）また従わなかった。こういうわけで斉の兵が多

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

く、一万人（の魯の兵）はみんな死んだ。またある年のある日の飢饉のときに、お前は君主が（国の状況を）察知する機会を与えず進言しなかった。そのまま穀物倉庫を開かず、それによって数万人を殺した。さらにお前は大臣として、職務は陰陽の秩序をととのえることであるのに、お前の政治はあるべき道にもとり、たくさんの水害や旱害の年を招き、国民はその被害を被った。これらは全部お前の罪である」と。その貴人は額ずいてようやく従った。閻魔大王が言うには、「最も苦しい地獄に落とせ」と。そこで牛の頭をした数人がいて、その貴人を捕えて去った、と。

艾子はこれを聞き、ため息が止まらなかった。門人が質問して言うには、「先生は季氏と旧交があったのですか。どうして嘆いていらっしゃるのですか」と。艾子が言うには、「私は季氏を嘆いているのではない。思うに閻魔大王を（憐れみ同情して）嘆いているのである」と。門人が言うには、「どういう意味ですか」と。（艾子が）言うには、「これからどうして地獄が空っぽになることがあろうか、いや、ないだろう」と。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答解説　第三講

〔解説〕

① 動詞「来」の上にあるので、「方」は副詞で「まさニ」と読む。

② 「何謂也」は「なんノいひゾや」と読み、「どういう意味か」と意味を問う決まり文句。

③ 「是以」は「ここヲもつテ」と読み、「だから・こういうわけで」という意味。「不敢〜」は「あヘテ〜ず」と読み、「決して〜ない」という意味。文末の「也」は、上に疑問・反語を表す言葉がないので、断定の「なり」。よって、「なり」の直前の「ず」は、連体形の「ざる」にする。「当」が問題になっていれば、再読文字の「まさニ〜べシ」の可能性が高いが、ここは下に動詞がなく、この「当」が動詞「当たる」である。すべて繋げると、「ここをもってあえてあたらざるなり」（現代仮名遣い）。仮名遣いは問わないということなので、解答の歴史的仮名遣いでも可。「こういうわけで決して当たらないのである」という意味。

④ 「安〜乎」は反語であるから「いづくンゾ〜（未然形＋ン）や」。「有〜者」は「〜者有リ」と読む場合が多い。その「〜」の中では「取」が動詞なので、その下の「人之駒」が目的語。すべて繋げると「いづくんぞひとのくをとるものあらんや」となる。「どうして他人の子馬を奪い取る者がいようか、いや、いない」という意味。

⑤ 「V以A」は「VスルニAヲもつテス」と読み、「VするのにAを用いる・AによってVする・AをVする」という意味。よって、「告以善」は「告（つ）ぐるに善（ぜん）を以（もつ）てす」と読む。「楽」が動詞であるから、その下の「告以善」は目的語となり、「〜以てするを」という読みにする（助詞「を」の接続は連体形）。「孰」が反語であるならば、文末の「哉」は「〜（未然形＋ン）や」と読む。すべて繋げると「つぐるにぜんをもってするをたのしまざらんや」となる。「（いったい誰が）善行を口に

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

するのを楽しまないことがあろうか、いや、楽しむ」という意味。

〔解答〕

① まさに　② どういう意味か。　③ ここをもつ〔っ〕てあへ〔え〕てあたらざるなり。

④ いづくんぞひとのくをとるものあらんや。　⑤ つぐるにぜんをもつてするをたのしまざらんや。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。